

2. 学校における建築家

学校における建築家プログラムの立案と実施のためのガイドライン

2-1 はじめに

人工環境は人間の活動と相互の関わり合いすべてにわたる枠組みであり、その形は人間がつくるのだが、人間自身その形から影響をうけて生きている。

このガイドラインの目的は、教師と建築家が双方の専門的な知識とスキルを十分に発揮しながら一緒になって子供達の人工環境の本質を見る力、人工環境の形と質が決まるプロセスを知る力を育てるプログラムを進めることにある。

学校における建築家 (Architects in Schools 以下 AIS と略す) プログラムは地域の文化や経済、また対象になる子どもの年齢により、規模やタイプが異なる。それゆえに、このガイドラインはプログラム実施の詳細には触れない。そのかわり、教師と建築家はその地域にふさわしいプログラムを計画し実施するための一般的な指針を示すことにした。

2-2 目標

学校における建築家プログラムには次のような目標がある。

- 2-2-1 人工環境と自然環境の関係と相互依存について意識させ理解させる。
- 2-2-2 人工環境に関係することがらに焦点を合わせて従来の教科を学習できるように教師と生徒を援助する。
- 2-2-3 建造物は何らかの人たちの決定によってできること、そのようなプロセスに生徒達が参加する場合を想定すること、などによって生徒や教師が自分達の周囲を分析するのを助ける。
- 2-2-4 分析と問題解決というデザインの様々な方法を教室に導入して、生徒と教師にデザインのプロセスを体験してもらう。
- 2-2-5 できれば、完成した建築に直接触れることのできるようなプロジェクトでそれを行う。

2-3 プログラムの計画

2-3-1 運営と費用

複数の学校が参加するAISプログラムの実施

にあたっては、UIA傘下の建築家協会が監督のための運営委員会を設立することが望ましい。

委員会の主体は教師と建築家である。

参加する建築家がボランティアであるなしに関わらず、プログラムに参加する学校には必要な費用の負担が求められよう。協力する人々が無料奉仕であるならAISの実施に費用はほとんど必要としない。しかし、明確な義務と大きな責任が伴うことを考えると、このようなプログラムは仕事に応じた報酬に基づいて実施されることが望ましい。

AIS プログラムは学校の正規授業の部分であることを意図しているので、できるだけ教育行政側が資金の準備を図るべきである。もしそれが実現すれば、行政にも人工環境教育の理念形成に参加する機会が生れる。それが不可能であるときは、学校と建築家の間で、プログラムのため費用について話し合う必要がある。

2-3-2 コーディネーターの選出

多くの学校が参加するAIS プログラムの運営委員会はコーディネーターを任命するとよい。この役割には、マネージメント力、人間関係調整とコミュニケーションの能力があつて、建築または教育の経歴をもつような人が適している。

コーディネーターの役割は、運営委員会の会議を準備する、プログラムに参加する学校と建築家の選定をアシストする、プログラムに必要な資金や人材などを探す、建築家と学校の協力関係を管理する、プログラムの報告書類をまとめることなどである。

2-3-3 建築家の選定

プログラムに参加する建築家を選び、参加する学校に紹介することは運営委員会の責任である。もともと建築家は教員ではない。しかし、子どもには適切に接することが求められるので、この選択は重要である。子どもとのコミュニケーションという点では、幼い方が上手な人、年長の方に向いている人などがあることに留意しなくてはならない。

建築家を選ぶ基準は次のようなものである。

- 建築家としての実務経験
- AIS プログラムの目標を、教師、両親、生徒と一緒に理解しようとする熱意
- 教育への関心と生徒に接する能力
- 組織と人間関係についての十分なスキル

2-3-4 学校の選定

運営委員会はプログラムの教育目標の達成に積極的な学校を選ばなくてはならない。地域からの広い支持を欠いている学校ではどんなプログラムも成功しないことを経験が示している。

学校と建築家の望ましいマッチングに成功するには、学校の地域性、小学校と中学校の分布などを考慮することが必要である。

2-4 プログラムの実施

2-4-1 最初の会合

プログラムコーディネーターは、学校と建築家を組み合わせた後に最初の会合を召集する。出席者は運営委員、建築家、参加各校の代表である。

会議はコーディネーターが議長になり、次のように議事を進める。

- 運営委員会委員長からの挨拶とAIS の目標の説明。
- コーディネーターから、これまでの成功事例などを簡単に紹介
- 学校と建築家の組み合わせについて説明
- このプログラムの内容について詳しい説明
- 全体の時間配分について
- 報告書について
- まとめの会合の予定について

ここで一旦会議を止め、学校関係者と建築家が話し合う時間をもうける。会議を再開して、不明な点について質疑応答を行う。

2-4-2 プログラムの実施

AIS プログラムを1学期で完全に行うために建築家が学校で生徒と接する時間は60時間くらいが望ましい。

AIS プログラムのための財源は学校をとりまく社会経済的な環境によって決まる。経済的に恵まれた地域では建築家の費やす時間に報酬が出ることもあり、プログラムの活動と

教材のための資金も十分に用意される。しかし、AIS プログラムは建築家と教師が協力しあう学校でありさえすれば、たいていがボランティアを原則として実施可能である。

プログラムの性質は教師が建築家と教育目標について話し合った上で決め、建築家の知識とスキルをもっとも効果的に活用できるようにする。建築家は積極的に行動することが期待されるが、AIS は本来教育プログラムなのであるから、健全な教育原理に則した方向へ確実に進むようにするのは教師の責任である。

プログラムの性質について意見が一致した後は、建築家の出校日と時間割りが決めなくてはならない。また、年度末前には報告書を提出しなくてはならないため、プログラムは早い学期に実施されることが望ましい。

プログラムの終わりには経過の報告書、できればその成果についても述べたもの、を作成すべきである。コーディネーターが参加校全体を総括した報告書をまとめる時間に配慮して、各学校は報告書を早く提出する。また、レポートには付録とし、プログラムにたいする生徒と教師による評価が求められる。

2-4-3 まとめの会合

すべての参加校のプログラムが終わり報告書が提出されたところで、コーディネーターはプログラムの経過を総括する会合、ないしはセミナーを開催する。この集まりの主眼は、プログラムに参加したすべての学校が各々のプログラムの成果と問題点をプレゼンテーションし、AISの実施を考慮中の学校をも含めてその経験を分かち合うことにある。それゆえ、この会合の情報はできる限り広く教育関係のメディアに周知するべきである。プレゼンテーションの仕方は各学校の自由で、できれば生徒達によるものとし、15分前後で終わるようにしたい。

この集まりは、AISプログラムの目標と成果を行政と資金面での可能性がある各方面に周知するよい機会でもある。